

テーマ：『 自然に親しみ、豊かな学びを創る子どもの育成 』

横浜市小学校 理科研究会

Tel. 045-364-2612

担 当 尾方信勝

045-931-2219

者： 鈴木康史



7月31日に行った夏季ゼミナールの模様

■実践内容:

平成20年3月告示された文部科学省「小学校学習指導要領」において、平成10年告示指導要領になかったものとして、3年「風やゴムの働き」「物と重さ」「身近な自然の観察」、4年「人の体のつくりと運動」、6年「電気の利用」「月と太陽」が新設されたり、小単元レベルで内容が追加されたりしている。理数教育の充実のもと、短い準備期間をもって平成21年度より先行実施されるものもあるが、十分な教材研究や教材開発、単元構成などが研究されていなかった。

そこで、本研究会において、本年度より研究主題を「自然に親しみ、豊かな学びを創る子どもの育成」を設定し、平成 21・22 年度は「新指導要領に根ざした、単元開発と授業づくり」を中心に各部会の実践研究を進めている。毎月行われている各部会の研究会、及び本研究会が毎夏行っている夏季ゼミナールにて、教材の研究及び共同検討会を行い、共通理解を図りながら教材の理解に努めたり、各校の子どもなどの反応を集約したりする。

■実践成果:

今回の助成を活用して、多くの教材の研究ができ、物理部会を中心とした基本研究、同部会員の学校や神小理会場校などでの実践での検証などができた。また、本年度児童に配布された教科書代わりの副読本であるが、教師文が簡単に手に入らない。しかし、新教材ばかりの冊子ゆえ、新要領の教科書サイドとしての教材研究が見て取れると考え、複数社の補助教材用の解説書を助成費より購入し、比較検討することでより良い教材のあり方を考えることとした。

前述の夏季ゼミナール(7月31日、8月4日)においては、手回し発電機や骨格模型など安価ではないものを用意し、ワークショップとして多くの参会者と共に触り、共に考える機会を得た。多くの参会者からも注目を集め、講師として迎えていた横浜国立大学教育人間科学部教授 森本信也先生も交え、多くの教材研究や実践報告がなされ、今後の学習の共通理解を図ることができた。

■実践ポイント:

新教材に増加に伴う模型や発電機などの整備が、この2年間の各校の課題となっている。そのためには最低数十万円かかるが、学校予算は厳しく、横浜では文科省の振興予算を教材充実に向けた方向性が出てこない。市の研究での成果を、指導計画と教材の両面でより広報していく。(2月に研究発表、3月に紀要配布)